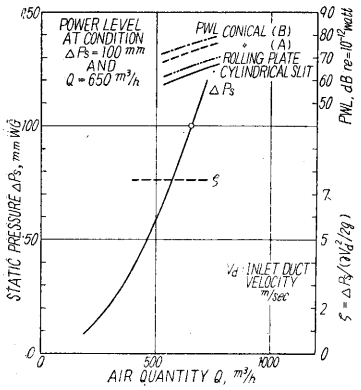


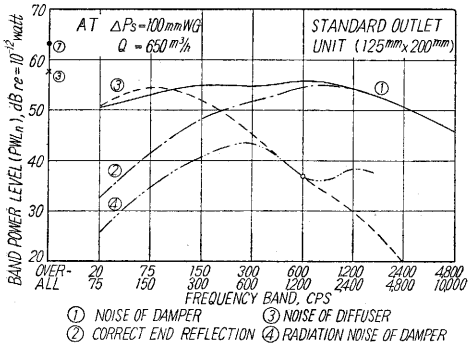
第　28　図

る（PWL = 63 dB）.

a.　ダンパの PWL_n を推定する（第29図①）.

b.　開放端反射補正を差し引く（第29図②）.

c.　200 mmφ ラジアル・ベーン・ディフューザの PWL_n（第29図③）.

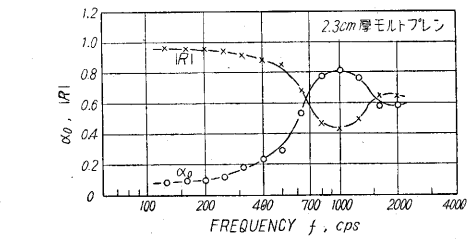


第　29　図

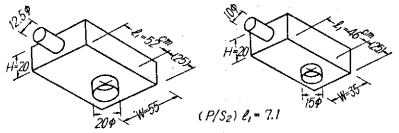
$PWL = 52.5 + 10 \log_{10} 100 A_n = 57.5$ dB, (12)式より PWL_n を第18図より推定する.

d.　所要減衰量②－③を求め，箱寸法を決める（1,200 cps まで対象）. $m=9, m'=3.5$ に選び，内貼に 2.3 cm モルトプレン（第30図参照）を使用すれば，第1表のように求まる.

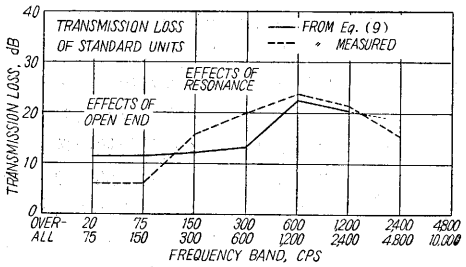
同様の方法で，大小の標準型消音吹出口ユニットの系列を求めることができる（第31図参照）. このときユニット上流の騒音にたいする T.L. はほとんど等しく，その系列にたいして特性が定まる（第32図参照）.



第　30　図



第　31　図



第　32　図

第　1　表

周波数 (cps)	300 600	600 1200
所要減衰量 (dB)	6	17.5
(14)式第一項 (〃)	6.5	
所要 R_L (〃)	−0.5	11.0
所要 $P/S_2 \cdot l_1$	−	7.1

$S_2 = 0.11\,m^3$，箱高さ $H = 0.2$ m にとれば，幅 $W = 0.55$，$\therefore l_1 = 0.52$ m

謝　辞

本研究に関してご協力いただいた東京新晃工業KKならびに東洋キャリア工業KKに対し深く感謝する.

(1960. 4. 18)

文　献

1) 勝田・後藤・寺沢：生産研究，Vol. 10, No. 12 (1958), pp. 392/6
2) 同　上：同　上（速報），Vol. 11, No. 5 (1959), pp. 123/4
3) Davis, D. D. 外：NACA. Pep. No. 1192 (1954)
4) Brüel. P. V.: Sound Insulation and Room Acoustics (1951), pp. 159/65
5) 前川純一：建築雑誌，昭 34. 9, p. 29
6) 後藤　滋：日本音響学会論文集，昭 35. 11, pp. 65/6
7) 勝田・後藤・寺沢：生産研究（速報），Vol. 10, No. 8 (1958), pp. 201/2

表　紙　説　明

写真測量を利用して，大仏像の精密測定を行なった．これは横からみたときの等間隔線図である（本文 37 ページ参照）.

正　誤　表（5月号）

頁	段	行	種別	正	誤
18	左	4	本文	磁歪振動子	磁歪み振動子
19	右		第7図説明	同上	同上